

研修全体のふりかえり・評価

※平成26年度開発教育指導者研修（実践編）（教師海外研修含む）受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。なお、集計表から無回答を除いているため各項目の合計は100%にならない場合があります。

■ 研修の目標達成度、満足度について

受講者の開発教育指導者研修（実践編）（以下、「指導者研修」という）や教師海外研修（以下、「海外研修」という）に対する期待や目的は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」（88%）、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」（86%）「自らの視野や能力を研鑽する」（81%）が上位3つとなっている【設問1】。

それらの各自の期待や目標の自己の達成度は、「とても達成できた」と「達成できた」を合わせて79%【設問2】、また、研修そのものに対する満足度は、「とても満足できた」と「満足できた」を合わせて95%【設問3】と、いずれも高い結果といえる。

設問2；各自の期待や目標は、どのくらい達成できましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても達成できた	20	46%
2	達成できた	14	33%
3	ある程度達成できた	9	21%
4	あまり達成できなかった＋達成できなかった	0	0%
	全体	43	100%

設問1；指導者研修・海外研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	38	88%
2	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	37	86%
3	自らの視野や能力を研鑽する	35	81%
4	実践者同士で交流し、ネットワークを作る	28	65%
5	世界の現状や日本とのつながりを知る	28	65%
6	その他	4	9%
	全体	43	100%

設問3；指導者研修、海外研修は、あなたの期待（あるいは目標達成の支援）を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	34	79%
2	満足できた	7	16%
3	ある程度満足できた	2	5%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体	43	100%

■ 研修を受けた自分自身の意識の変化について

● 受講者の関心の高まり

受講者の88%が、「受講後により関心が高まった」と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問4】。

設問4；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	34	79%
2	受講前はあまり関心が高かったが、受講後関心が高まった	4	9%
3	受講前から関心があり、受講後も変わらない	5	12%
4	受講前はあまり関心が高かったし、受講後も変わらない	0	0%
	全体	43	100%

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての理解」したり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よくわかった」と「わかった」を合わせて88%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて93%となっており、本研修はほとんどの受講者にとってこうした学びに繋がったといえる。

設問 5；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりがわかりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よくわかった	28	65%
2	わかった	10	23%
3	ある程度はわかった	5	12%
4	あまりわからなかった＋わからなかった	0	0%
	全体	43	100%

設問 6；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	26	60%
2	考えるようになった	14	33%
3	ある程度は考えるようになった	3	7%
4	あまり考えるようにならなかった＋考えるようにならなかった	0	0%
	全体	43	100%

その他、地球市民として、具体的に受講者が気づいたり、考えるようになった主な内容を以下に示す。

設問 7；その他、地球市民として、何に気づき、何について考えるようになりましたか。（主な回答内容）

<知ること・学ぶことの大切さ楽しさ>

- ◇よりよい教育のために、自分自身が学び続けることの大切さ、子どもたちと一緒に考える楽しさ。
- ◇自分がいかに無関心であったか。環境や貧困などの問題について考えることの大切さ。

<関心の高まり／意識の変化>

- ◇新聞、テレビ等で関心を持つニュースが変わった。1人ひとりが世界に関心をもち続けることが大事。
- ◇周りの何気ない言葉に人権を感じたり、行動に環境の軽視を感じるようになった。
- ◇遠くの国で起きていることを絶対に他人事にしないと認識するようになった。

<自分の選択と行動が未来を変える・作る>

- ◇自分の行動を選ぶことで、社会・世界は変わっていくと考えるようになった。
- ◇今の学校現場で教えていることは、子どもたちの将来につながっていくこと。
- ◇実践を通して、一人ひとりの小さな一歩（ちょっとした努力）が、大きな力に結びつくことを実感。

<日本（自分）と世界とのつながり／持続可能な支援・貢献と責任>

- ◇日本が多くの国とつながり、人の交流や貢献も絶えず行われていることを知った。
- ◇すべてはつながっている。だからこそ、一人ひとりの過ごす一瞬はあらゆるものへの責任がある。
- ◇支援は持続可能であることが大切。

<世界の課題は日本・自分の課題でもある>

- ◇地球の課題は外国の話ではなく、自分と自分の国の課題。
- ◇遠く外国のことを考えることは、となりの子のことを考えることと同じこと。
- ◇国際理解教育が外国のことについての理解や国際交流に限らず、日常生活すべてに関わりがある。

<価値観の多様性／多様性を認め合うことの大切さ>

- ◇自分を認め、相手とのちがいを認めようとするのが、平和への道。
- ◇暴力から良い結果はうまれない。自分と相手との両方を考えられる人、考えられる社会にしたい。
- ◇多様な意見を認めながら、自分も思ったことを伝えていくことの繰り返しで共生社会を作れるのかも。

<教育（教育者）の使命と可能性／授業における教育内容の変化>

◇学校で国際理解教育を進めていくことで、世界はすこしずつ変わっていく可能性を秘めている。

◇知る→考える→気付く→行動するという流れを、普段の授業でも意識するようになった。

◇もっと自分が世界とつながり、そして、子どもたちにつなげていくことはないか探そうになった。

<持続可能な未来を考えた行動>

◇地球市民であることを自覚し、流れてくる情報だけでなく、自分から情報を調べるようになった。

◇違いを楽しむ心が育ち、違うから面白く豊かな文化が生まれることに魅力を感じ生活できるように。

◇商品の低価格化競争の背景に途上国の低賃金労働という現実があることを知り、物の選び方に変化。

◇自分の普段の生活や行動が、周囲にどのような影響を与えるのかを以前より考えるようになった。

◇自分が生きる今や、生きた過去ではなく、子どもが生きる未来を考えるようになった。

● 開発教育・国際理解教育の内容理解

受講者が考える開発教育・国際理解教育の範ちゅうは、受講後にその幅が広がり、特に選択肢（No.8～11）が大きく増えて割合が88～95%となっており、当該教育の幅が広がり、「自分たちの生活とのつながりの中で地球規模の課題を考え、解決する意識を育む教育であること、そのためにはスキルトレーニングが必要であること」といった開発教育・国際理解教育への理解が深まったといえる【設問8】。

設問8；受講前後に考えていた「開発教育」または「国際理解教育」の教育の範ちゅうはどれですか。

No.	選択肢	受講前		受講後		割合増減
		回答者数	割合	回答者数	割合	
1	外国語教育	13	30%	15	35%	5%
2	異文化理解	39	91%	37	86%	-5%
3	国際交流	33	77%	36	84%	7%
4	日本の伝統・文化	16	37%	27	63%	26%
5	開発途上国の開発	29	67%	35	81%	14%
6	南北問題	15	35%	26	60%	26%
7	在住外国人との共生	19	44%	30	70%	26%
8	人権・環境・平和など地球規模で考えるべき課題	23	53%	41	95%	42%
9	地球規模の課題と自分とのつながり	24	56%	41	95%	40%
10	様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成	11	26%	38	88%	63%
11	自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング	12	28%	40	93%	65%
12	その他	4	9%	8	19%	9%
	全体	43	100%	43	100%	-

■ 開発教育・国際理解教育の実践について

● 実践時間

平成 26 年度の受講者の開発教育・国際理解教育の実践時間は、「20 時間以上」が 13 人 (30%) と最も多く、次いで、「5～9 時間」10 人 (23%)、「10～14 時間」9 人 (21%) となっており、比較的長い時間で授業を組み立てて実践が行われていることがわかる【設問 9】。

昨年度との対比では、受講者の 81% が「前年度より増加した」としています【設問 10】。その理由としては、「開発教育の理念・内容・手法とその効果を学んだことによるモチベーションと自信」「教師としての教育観・使命感の変化」「子どもたちの変化の実感、効力感」「活用できる教材や引き出しの増加」「研修を通じた機会の創出や時間の捻出」「仲間からの刺激」等となっており、本研修の受講が、開発教育・国際理解教育の実践時間を昨年度より増加させた大きな契機になっているといえる【設問 11】。一方、変わらない、減少したのは、「学校カリキュラムの変更」「実践の場・機会の減少」「開発教育を他教科に結びつけることの難しさ」が理由となっている。

設問 9；平成 26 年度の開発教育・国際理解教育の延べ実践時間

No.	選択肢	回答者数	割合
1	1～4時間	6	14%
2	5～9時間	10	23%
3	10～14時間	9	21%
4	15～19時間	5	12%
5	20時間以上	13	30%
	合計実践時間数	722	時間
	1人当たり平均実践時間	16.8	時間/人

設問 10；前年度に比べた開発教育・国際理解教育の延べ実践時間の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	前年度より増加した	35	81%
2	前年度と変わらない	5	12%
3	前年度より減少した	1	2%
	全体	43	100%

設問 11；実践時間が増加した理由は何ですか。(主な内容)

<開発教育の理念・内容・手法とその効果を学んだことによるモチベーションと自信向上>

- ◇伝えたいことを参加型で伝える方法を学ぶことができたから。
- ◇開発教育・国際理解教育がわかり、手法を身につけたことによって、自信を持てたから。
- ◇ファシリテーターとしての意識と「行動する」意識が高まり、取り組んでみたいことが増えた。
- ◇自分が使える手法が多くなり、実践のバリエーションが増えたから。
- ◇45 分の短い時間の中でも、ねらいに合わせて柔軟に取り入れることができるようになったから。

<教員としての教育観・使命感の変化、目標の明確化>

- ◇英語教育を通して、子どもたちに世界のことについて深く考えてほしいという思いが強まったこと。
- ◇講座や海外研修に参加し、伝えたいことがたくさんできた。
- ◇自分も「発信者」の一人という気持ちが高まったから。「やりたい」という気持ちが強くなった。
- ◇実践で取り扱うべき課題が明確になり、手法も明らかになったので迷いなく行えるようになったため。
- ◇授業内でも、自分の視点が変わったため。

<子どもたちの変化の実感、効力感>

- ◇実践授業以外でも、自分の経験をもとに時間を見つけて生徒に話すようになったため。

◇参加型の授業を通して子ども達が変わる様子が楽しくて、決められたカリキュラムの中ではあったが、自分なりに工夫をして実践を行うことができたから。

◇研修を受けて、国際理解教育をすることで、生徒たちの見える世界が変わってくると感じ、彼らへの将来の可能性を広めたいと感じ、少しだけですがとり入れました。

<活用できる教材や引き出しの増加>

◇海外研修に参加させていただき、たくさんの生きた教材を持ち授業で帰り使うことができた。

◇これまでの受講者の方の実践や、JICAの資料等を活用することができたから。

◇海外研修に参加し、伝えたいこと、伝えるべきことができたため。

◇実践するスキルと材料を習得したから。

<研修を契機とした機会の創出・時間の捻出>

◇直接の原因は、今回研修を受けたことによる実践の機会の創出。 ◇研究授業として取り上げたため。

◇学年部の協力もあり総合的な学習の時間や道徳の時間を使わせてもらうことができた。

◇総合学習の中で「国際理解教育」のテーマで年間計画を立てて取り組んだから。

◇総合やLHRの中で学んだ手法を用いて活動し、開発教育・国際理解教育の趣旨を盛り込んだ。

<仲間からの刺激>

◇他の仲間が頑張っている様子を知り、刺激を受けた。

◇ガーナのメンバーが実践をやっていて、刺激を受けることが多くなった。

● 実践内容

昨年度に比べて実践内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」60%、「深まった」21%、

「ある程度深まった」12%との回答が得られ、95%の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問12】。

その理由は、「研修の質と量」「開発教育・国際理解教育への理解の深まり」「参加型の理論と方法理解とスキルの習得」「学びの継続、経験の蓄積、意欲の高まり」「十分な実践時間確保と授業計画の立案」「多様な仲間との対話と刺激」「リソース・教材の入手と活用」などとなっている【設問13】。一方、あまり深まらなかったのは、「自分の現場で学習者主体の授業をする難しさ」「自分の経験と自信のなさ」「自らの教材研究の不足」が理由となっている。

設問12；昨年度に比べて本年度の実践内容はどのよう
になったと思いますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	26	60%
2	深まった	9	21%
3	ある程度深まった	5	12%
4	あまり深まらなかった	2	5%
5	深まらなかった	0	0%
	全体	43	100%

設問13；実践内容が深まった理由は何ですか。(主な内容)

<研修の量と質、開発教育・国際理解教育への理解の深まり>

◇全くゼロのスタートだったにも関わらず、実際に授業実践することができたこの研修の質の高さ。

◇国際理解教育、開発教育とは何か、という根本的なことを理解することができたから。

◇教える内容を自分自身がより理解して学んでから、授業に臨むように心掛けたから。

◇私自身の理論と実践への理解が深まり、自分なりに実践してみようと考えたから。

<参加型の理論と方法理解、スキルの習得>

◇プログラムを作る展開やねらい、効果的な手法を学び応用することができたため。

◇ワークショップの一つ一つの行動の意味を意識することができたため。

◇ねらいを決めてそれにあった手法を選ぶことが意識できるようになった。

◇自分の満足ではなく、学習者の立場で流れを考え、「学習者が考える」ことを意識した。

<学びの継続・経験の蓄積による意識・意欲の高まり>

◇場数を踏み、知識が増え、意識のさらなる高まりがあったため

◇経験を積み、何をどのように伝えるべきか、到達点はどこかを考えて物語を作れるようになったから。

◇自分でも開発教育や国際理解教育について本やインターネットで調べ、実践に役立てることができた。

◇「答えのない」「自分たちで考えていく」参加型の授業をやりたくなったこと。

◇自分自身が意識して授業を行うことで、生徒の反応をよりしっかり見ようとするようになったから。

◇研修を通して、様々な視点から物事を見る目が養われ、多面的・多角的に実践を考えられたため

<十分な時間の確保と授業計画>

◇年間計画を立て、行事や総合学習のテーマにそって学習を進めたから。

◇年間を通して、十分な実践時間を確保できたため。◇内容が深まるよう十分な計画を立て実践をしたから。

<多様な仲間との対話・刺激>

◇いろいろな考えをもった仲間と出会い、語り合える時間があったため。

◇同じ職種だけでなく、違う立場の方の考えも聞くことができ、多面的な見方をもつことができたから

◇他の受講者の熱意に影響を受け、自分もがんばれた。

<リソース・教材の入手と活用>

◇異文化理解教育で扱いたい題材や教材を多く入手できたため。

◇教師海外研修で自分の目でみたことにしたがって教材を作成することができた。

◇海外研修での実体験をふまえ、資料の提示ができたため。◇なごや地球ひろばへの訪問

● 実践力

開発教育指導者研修（実践編）は、行動変容を支え関係性を育む「参加型」と参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割を理解し、自ら習熟することをねらいに定めて実施した。これらのねらいに対し、受講者がどの程度理解し習熟したかを3つの指標で評価した結果は以下のとおりである。

一つ目の指標「流れのある参加型プログラムの作成」については、「とても作れるようになった」19%「作れるようになった」37%であり、半数以上の受講者が参加型プログラムの作成スキルが向上したと認識している【設問14】。

二つ目の指標「理解・実践した参加型の手法」については、「ブレインストーミング」81%、「派生図・因果関係図」79%、「カード式整理法（KJ法）」77%は大半の受講者が実践しているが、「ランキング」28%、「指標づくり」35%等は、1/3程度の実践となっており、手法により実践度に高低差が見られた【設問15】。

三つ目の指標「ファシリテーターとしての心がけ・実践」については、「出された意見は受けとめ、学習者の発想を最大限に活かすようにしている」81%「自分が話す時は、教え聞かせるのではなく、学習者が自ら考えられるように問いかけるようにしている」74%が多く意識されているほか、他の心がけ・実践についても半数以上の受講者が行っており、学習者主体のファシリテーションへの理解が進んでいるといえる【設問16】

その他、「参加型プログラムづくり、ファシリテーションについて、実践力（スキル）を身に付ける必要があると思うもの」と受講者が考えている主な回答は、次ページのとおりである。

設問 14；研修や実践を通じて、学習者主体の流れのある参加型プログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	8	19%
2	作れるようになった	16	37%
3	ある程度作れるようになった	18	42%
4	あまり作れるようにはならなかった	1	2%
5	作れるようにならなかった	0	0%
	全体	43	100%

設問 15；次の参加型の手法のうち、進め方を理解し、実践した手法はどれですか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	ブレンストーミング	35	81%
2	派生図・因果関係図	34	79%
3	カード式整理法(KJ法)	33	77%
4	対比表	19	44%
5	ロールプレイ(なりきり紹介)	16	37%
6	指標づくり(○箇条づくり)	15	35%
7	ランキング	12	28%
	全体	43	100%

設問 16；次のうちファシリテーターとして心がけ、実践しているものはどれですか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	出された意見は受け止め、学習者の発想を最大限に活かすようにしている	35	81%
2	自分が話す時は、教え聞かせるのではなく、学習者が自ら考えられるように問いかけるようにしている	32	74%
3	学習者が、自分の価値観に気づき、大切にすべきものがわかるようにしている	24	56%
4	予定調和の答えではなく、学習者が学びあう中で答えを見つけたり、新しい発見ができるようにしている	23	53%
5	参加型を取り入れた実践では、自分より学習者が話すほうが多くなるようにしている	23	53%
	全体	43	100%

設問 17；参加型プログラムづくり、ファシリテーションについて、実践力(スキル)を身に付ける必要があると思うものは何ですか。(主な内容)

<明確なねらいの設定/流れのあるプログラムづくり>

◇ねらいを明確にして子どもの意識に沿った展開を考える。 ◇ねらいとアクティビティ等に一貫性がある。

<アクティビティの引き出し/的確な手法の選択>

◇流れのあるプログラムにするための活動アイデアを豊富に持つ。 ◇適する場面で適する手法が使える。

<考えを引き出す力/わかりやすい問いかけや説明>

◇分かりやすく、短く、的確な指示が出せる。

◇話し合いを潤滑に進めるテクニックと、意見や考えがでてくるのを待つ姿勢と上手に引き出すスキル。

<安心感のある場づくり>

◇学習者同士の関係に気を配り、明るい話しやすい雰囲気や、平等感、安心感、信頼感のある場を作る。

◇初対面、性格の違い(積極的・消極的など)や知識・経験の差があっても対等に接する。

<柔軟性/臨機応変な対応>

◇参加者の状態に合わせて、柔軟に「問い」や「手法」を調整できる。

◇活動中に想定外のことが生じて、肯定的に受入れ、そこからの発見(=学び)を楽しく引き出す。

<時間管理/見通す力>

◇学習者がじっくりと思考でき、意見交流できる十分な時間を確保するとともに、時間管理ができる

◇各手法にかかるおおよその時間の見通しを持ち、優先順位をつけ、時間の区切り方を考えられる。

<共に考える・共に学ぶ姿勢>

◇学習者と共に考える共に一つの目標に向かっていく意識。◇自分も学習者も平等であるという謙虚な心。

<自己肯定感/信じる力/他者受容>

◇自分に肯定的になり自分の力を信じ、生徒への愛情を持って生徒の可能性を信じる。

◇自分は異なる価値観も認め、どんな人に対しても寛容である。

<知識/情報収集>

◇学び続け、知識を増やし、教材を充実させる。深く知ることで、言葉に説得力を持たせる。

◇参加者からの多様な意見を最大限生かせるように知識を身につける。

<明るさ/楽しもうとする姿勢>

◇明るさ、ユニークで授業を工夫し、学習者とともに、発見を楽しみながらファシリテートする。

<ふりかえる力/ふりもどす力>

◇ファシリテーションが新しいものを生み出す効果検証。◇生徒の行動を冷静に観察し、意見を拾う力

◇参加者の発言を聞いて、そのまま素早くメモできるようにすること。

■ 学習者の変化や周りへの波及効果について

● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」と合わせて受講者の70%が学習者のより良い変化を強く実感している【設問18】。

より良い変化の中身については、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」62%、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」60%、「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」

52%が上位3位となっている。また、「自分に出来る国際協力への取り組みに関心を持つようになった」

50%、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」36%、

「自らの生き方や共生について考えるようになった」29%、「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」26%といった変化の実感があった受講者も1/4～半数程度おり、開発教育・国際理解教育の範ちゅうのうち、研修を通じて回答が大

設問 18；開発教育・国際理解教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	4	9%
2	変化があった	26	61%
3	ある程度は変化があった	10	23%
4	あまり変化はなかった	1	2%
5	変化はなかった	0	0%
	全体	43	100%

設問 19；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。
(設問 18 で変化があったと回答した 42 人)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	26	62%
2	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	25	60%
3	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	22	52%
4	自分に出来る国際協力への取り組みに関心を持つようになった	21	50%
5	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	15	36%
6	自らの生き方や共生について考えるようになった	12	29%
7	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	11	26%
8	自分の生活を振り返り、身近な資源の節約など周りの環境を大切に意識が高まった	9	21%
9	その他	6	14%
	全体	42	100%

大きく増えた「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に対して、実践により一定の効果として学習者のより良い変化に現れているといえる【設問 19】。

● 授業以外の活動や他の教職員への波及

開発教育・国際理解教育における参加型の手法や考え方を授業以外でどんな活動に取り入れたかについては、受講者の95%が何らかの活動に取り入れている。具体的には、「コミュニティづくり(学級・地域)に取り入れた」44%、「学級の決め事に取り入れた」40%、「研修・講座に取り入れた」23%、「ミーティング・会議に取り入れた」21%となっている【設問 20】。

また、所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は98%に達し、本研修は

受講者により他の教職員への波及も得られていることがわかる。その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が79%と一番多く、次いで「研究発表(公開授業など)で伝えた」47%、「校内・団体内での報告会・研修会で伝えた」26%、「共同で教材を作成する際に伝えた」16%等となっている【設問 21】。

周りへの波及の環境として、実践活動への所属する学校や団体の上司や同僚の理解については、「とても理解している」、「理解している」、「ある程度は理解している」を合わせて84%と、多くの受講者は周りの理解のもと実践活動ができているが、11%の受講者は理解が得られていない環境で実践を余儀なくされているという実態もある【設問 22】。

設問 21；所属している学校や団体内において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日常のやりとりの中で伝えた	34	79%
2	研究発表(授業公開など)で伝えた	20	47%
3	校内・団体内での報告会・研修会で伝えた	11	26%
4	共同で教材を作成する際に伝えた	7	16%
5	その他	6	14%
6	どこにも伝えていない	1	2%
	全体	43	100%

設問 20；参加型の手法や考え方を、自分の活動に関係することに取り入れられましたか(授業以外)。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	コミュニティづくり(学級・地域)に取り入れた	19	44%
2	学級の決め事に取り入れた	17	40%
3	研修・講座に取り入れた	10	23%
4	ミーティング・会議に取り入れた	9	21%
5	その他	10	23%
6	どこにも取り入れていない	2	5%
	全体	43	100%

設問 22；所属する学校や団体の上司や同僚は、あなたが行う開発教育・国際理解教育や参加型の実践活動を理解してくれていますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても理解している	13	30%
2	理解している	7	17%
3	ある程度は理解している	16	37%
4	あまり理解していない	4	9%
5	理解していない	1	2%
	無回答	2	5%
	全体	43	100%

● 所属する学校・団体以外での活動

所属する学校・団体以外で開発教育・国際理解教育の活動をしているかについては、「活動していない」47%、「受講前から活動している」44%ではあるが、「受講を契機に活動を始めた」も7%(3人)となっており、研修の契機にした学校・団体外での開発教育・国際理解教育の活動が生まれている【設問 23】。活動の具体的な内

容は、「講演・セミナー・講座への参加」55%、「国際協力活動へ参加」32%「団体・研究会に所属」27%、「外部の研修会やセミナーなどで実践発表」23%、などとなっている【設問 24】。

受講者同士の関係・ネットワークについては、95%の受講者ができたとしている。具体的内容は、交流的なものから企画・実践的なものまで様々なつながりができている【設問 25】。

設問 23；所属する学校・団体以外の場においても開発教育・国際理解教育の活動をしていますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から活動している	19	44%
2	受講を契機に活動を始めた	3	7%
3	活動していない	20	47%
	全体	43	100%

設問 25；研修の受講者同士で、どのような関係・ネットワークができましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育に関係なく、近況を知らせたり、交流を図る関係・ネットワーク	32	74%
2	開発教育・国際理解教育について情報交換する関係・ネットワーク(実践状況を共有し合うなど)	29	67%
3	共に企画・実践する関係・ネットワーク	7	16%
4	その他	3	7%
5	関係・ネットワークはできなかった	2	5%
	全体	43	100%

設問 24；どのような活動をされていますか。(学校・団体以外で活動しているに回答された方のみ)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育に関する講演・セミナー・講座へ参加	12	55%
2	国際協力活動へ参加	7	32%
3	開発教育・国際理解教育に関する団体・研究会などに所属	6	27%
4	外部の研修会やセミナーなどで実践発表	5	23%
5	雑誌やコンクールなどに投稿 その他	3	14%
	全体	22	100%

■ 全体を通して

● 最も大きな学びや変化

「受講者の1年間の研修を通した最も大きな学びや変化」についての回答は、以下のとおりである。

設問 26；1年間の研修を通して、あなたの最も大きな学びや変化は何でしたか？

(開発、国際協力に関する学びの効果や気づきがある方はその点についても詳しくお書きください)

<教育観・教育内容の変化>

- ◇「行動変容をうながす」という言葉が、一番心に残っている。
- ◇「世界史」は、教科指導だけにとどまらず、世界・人類・社会を学ぶうえで恰好の教材だと再認識。
- ◇知識や考え方を生徒が学ぶ際、先ず受け入れる器をいかに育成するかに焦点を当てるようになった。
- ◇特別活動や道徳の授業などに参加型の手法を取り入れることで、授業づくりの幅が広がった。
- ◇普段から生徒の良いところを褒めるようにはしてきたが、生徒同士がお互いに認め合うとの大切さ。
- ◇今までの授業形態から少しだけ変化できた。来年度はもっと意識したい。
- ◇異文化交流や異文化体験に留まらず、共通の課題について考えたり、自分自身や地域について考えるような活動に、実践の幅を広げることができた。

◇生徒たちに教えるのではなく、自分の頭で考えられる人になってほしいという気持ちが強くなった。

＜自分の変化・成長の実感＞

◇昨年はフォーラムを見る立場だったが、今年は発表する立場になり、1年間の成長と達成感を感じた。

◇自分が動かなければ変わらない、自分が動けば変わる可能性があること。

◇研修を受けて他者のことを考えれば考えるほど、「自分は？」と自問自答するようになった。

◇自分がものを知らないことに気づき、もっと多くのことを知りたい、経験したいと以前よりは積極的に行動するようになった。

◇知らないものを知る面白さを、楽しく実感させるプログラム作りは難しいが、研修で自分が得た感覚を子どもたちにも伝えたいという思いを得ることが出来、積極的に自分が関わろうと行動をするようになったのは、大きな変化だと思う。

◇自分を知る⇒相手を知るは、自分を大切にする・相手を大切にするつながり、共生の基礎となる。

◇生徒に伝えようと思いいろいろやっていたが、それは同時に自分自身を見直す機会になっていた。

◇校外での研修に対して、積極的にになった。

◇どんな人とも、「今ここ」を共有しようという気持ちが芽生えた。他人を大切にするようになった。

◇他者を肯定的に受け止めることの大切さを改めて実感した。

◇自分の意識。知るだけでなく、行動する、発信することまで考えるようになった。

◇自分自身の人権感覚と向き合ったこと。

◇研修に参加することで自分自身が自己開示していくことを体験した。

◇未来に希望を持てるようになった。

◇自分自身が大きく変容したこととその変容に自分で気が付けたことが一番の収穫であり、研修効果。その助けとなったのは研修で様々な理論や手法を学び、地域や学校の現場で繰り返し実践したこと。

◇自分からはじまり、知り、行動し、そして自分へ返ってくるというリンクの素晴らしさ。

◇いろいろな人と意見を交換し、自分の学びも深まることを、身をもって体験することで、人の意見を聞くのがとても楽しいと思えるようになった。

◇以前は自分には知識があまりないと不安だったが、参加型の手法の中で生徒の意見から学ぶこともあり、生徒と一緒に学んでいこうと少し気が楽になった。

＜参加型・ファシリテーションの理論とスキルの獲得+実践を通した参加型学習の効果の実感＞

◇これまで自分が海外で得た知識を参加型で生徒に伝える方法が分かり、生徒と一緒に国際協力について考えることができたことが一番の収穫である。

◇様々な手法を普通の授業で取り入れることで参加型の活気ある授業が展開できるようになった。

◇異なる意見がぶつかったその先に、どちらかが押し通したりあきらめたりするのではなく、より良い新しい考えが生まれることを体験した。

◇参加型の手法はもちろんだが、それを使うファシリテーターとしての心得を考えることができた。

◇開発教育による学びの体系が、子供たちに大きな力を与え、同時に、子供たちから多様な力を引き出せることを、実践を通して実感した。

◇参加型の手法を取り入れることで、生徒主体の活動が増え、生徒たちの授業への満足度が上がった。

◇生徒の視点に立ち気づきを大切にした授業をすることで、内面に訴えかける教材を提供できたこと。

◇参加型授業の実践を通して、子どもたちが主体的に学ぶという場面を体験することができました。普段なかなか発言できない子も意見を言えることができ、みんな楽しそうで、嬉しかったです。

◇開発教育は、未来のために何ができるのかを考える、人を前向きに、明るくさせることを実感した。

◇一年間の研修では、様々な人と教育についてだけでなく、地球規模での課題について話し合うことができました。多様な考えを聞き、また自分自身の考えも話すことでまとまっていきました。言葉にして表現できる機会と、それを肯定的に受け入れてもらえる場合は、学びを充実させることを知りました。

<世界への関心の高まり／視野の広がり>

- ◇世界を多角的に見られるようになり、自分や身の回り、日本を広い視野で見つめ直すことができました。
- ◇世界の問題、途上国のニュースについても興味関心が持てるようになった。
- ◇職場を超えた様々な方々との出会いが、自分の視野を広げてくれた。
- ◇JICAの活動を知ることができたこと。
- ◇子どもの世界を広げようと思って参加したが、自分自身のものの見方や、つながり、世界が広がった。
- ◇青年海外協力隊に行きたい思いがさらに固くなり、実際に来年度応募しようと思う。

<実践や自分の次の行動に向けたモチベーションの高まり>

- ◇「実践しなければいけないからする」ではなく「実践してみたいからする」という気持ちが高まった。
- ◇実践報告後も、フォーラムで教えてもらった実践をどこかで時間を作ってやってみたい気持ちでいる。
- ◇年間を通して国際理解教育を行うことができ、今後も続けていきたいという思いが明確になった。
- ◇自ら提案・実践していくことで、学校でも効果的な国際理解教育・開発教育を実践できるということ。
- ◇日本の教育課題の深刻。様々な問題解決のため、参加型の学習が今後ますます必要性になると感じた。
- ◇試験のための知識ではなく、生きた知識にするための手法を学び、参加型の授業を工夫していきたい。

<仲間との出会い／仲間からの刺激／ネットワークの広がり>

- ◇同じ思いをもって活動している仲間に出会えたことがとても嬉しく研修に来る日が楽しみだった。
- ◇じぶんが取り組んでいることや意識を共感してくれる仲間が増え、ネットワークが広がった。
- ◇開発、国際教育に対する熱意を持った先生や他団体の方との新たな出会い、繋がりができた。
- ◇他の教員の方の実践が大変参考になり、これからの授業に生かしたいものが多くありました。

● 研修で得られた気づきや学びを今後活かす意向

研修で得られた気づきや学びを今後生かしていくかについては、受講者の88%が「授業・セミナーなどで活かす」と回答している【設問 27】。
具体的には、以下のとおりである【設問 28】。

設問 28；具体的にどのように活かしていきたいと考えていますか。(主な意見)

設問 27；研修で得られた気づきや学びを今後活かしていきますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	授業・セミナーなどで活かす	38	88%
2	検討中である	2	5%
	その他・無回答	3	7%
	全体	43	100%

<教科教育／総合学習／学級活動／特別活動への参加型の取り入れ>

- ◇参加型の手法を活用し、生徒が主体的に参加し、互いの意見や価値観を知り理解を深める授業展開。
- ◇どの科目でも、国際理解教育に関連するテーマを見つけ、参加型を生かして生徒の意見を引き出す。
- ◇あらゆる科目で座学ばかりではなく、研修で得た学びや方法を実践し、自ら気づく学びを提供する。

<年間を通じた国際理解教育カリキュラム・学年全体で取り組む働きかけ>

- ◇普段の授業の改善。授業の内容を考えるにあたり、必ず行動まで結び付けるような流れを考える。
- ◇授業の年間プログラムを立てて、計画的に実践していく。
- ◇総合的な学習の時間における第5学年の「国際理解」への取り組みを固定化したい。

◇本校の国際理解教育のカリキュラムを見直し、一年間の指導計画を立てたい。

<研究会での発表／研究授業・現職教育>

◇開発教育の手法を英語教育に取り入れた活動を実践し、研究会などで発表する。

◇多くの手法を違う授業でも生かしていき、研究授業や現職教育などで他の先生方にも広げていく。

◇教員間での自主研修や、校内研修（授業改善）の際に、参加型の手法を広める。

<教材開発>

◇開発教育を活用した英語教育の教材開発も行う。

◇学校外での活動で「日本の教育問題」をテーマにしたアクティビティを作り、実践の場を探る。

◇子ども向けのアクティビティを考えて、実践する機会を作りたい。

<関係づくり／平和教育・人権教育への活用>

◇参加型の手法を使い、生徒同士の関係作りや平和教育に活かす。

◇教育者だけでなく、親や地域、企業、行政など、今後まちぐるみで取り組めるよう活動していきたい。

◇子どもの意見の真意を捉え、肯定的に受けとめ、また生活指導においても活かしていきたい。

◇学校で取り組む人権教育に参加型を取り入れ、自分事として捉えられるようにする。

◇違いは豊かさであることや、幸せを願う気持ちに違いはないことや自分の偏見に気づくような、人権学習の基盤を作る学習に活かす。

<学級経営、組織運営、会議、自主企画への参加型の取り入れ>

◇NPO 団体の集まりなどで、参加型をつかって会議の見える化を進めたい。

◇参加型を取り入れた自主企画の講座をもっと開催し、外部講師として提供する。

◇自分の関わる NGO 活動でワークショップ・会議・トレーニング等を行う際に参加型の手法を用いる。

◇L T、クラス経営、教員間の会に活かす。

◇生活・仕事のなかにも参加型の手法を取り入れ、ともに考える態度を醸成していきたい。

<実践を積み重ね／継続>

◇児童の実態を踏まえた実践を積み重ねていく。改善を加え継続する。

◇ガーナとの交流活動は、可能な限り、来年度以降も継続していこうと考えています。

■ 研修・フォーラムをより良くするための提案

● 指導者研修をより良くするための提案 主なものは以下のとおり。

◇開催日程・場所…7月上中旬の土日の参加がネック、もっと日数を増やす、各県開催など

◇研修内容…より多くの受講者と話す機会、第3回研修以降のフォローアップ、全教材の配付

● 実践報告フォーラムをより良くするための提案 主なものは以下のとおり。

◇ポスターセッション…もっと多くの実践報告を聞きたい、10分間での報告が短い

◇実践教材体験ワークショップ…1時間では短い、前日にプログラムを作るのは準備不足になりがち
前日の準備時間が短い、ワークショップの感想を聞く時間がほしい

◇フォーラム全体…2日間ぐらいかけてもよい内容、各県開催、冒頭のアイスブレイキングは必要
その他フォーラムの運営に関する意見